



2747

政府及被害民ニ對スル田中正造外全志責任



414
A 1249
6



政府及被害民ニ對ス

田中正造・外同志ノ責任

三十一年九月廿六日午後二時四十八分芝

口三丁目旅人宿信濃屋、一室内ニ設ケタル鑛

毒事務所ニ飛電アリ、館林ヨリ至ル曰ク、被害民

今出炭ス其數一万余人ナリト正造ハ別室ニテ

リ會場以日ハ群馬縣邑樂郡渡瀬村雲龍寺ニ大

集會アルコトヲハ專テ兼知セシ天以出炭ノコ

トヲハ豫知セカリキ而シテ今以テ報ニ接セ制

後ニ同ク當日、集會者大凡八九千人アリシガ集會

議一變シテ遠カシ出京スルニ至レリナリト

二十七日 午前九時五十分飛電又至ル曰、一万

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

余人此地ニ来レリト蓋シ一行中幸手駄ヨリ奔
セシモノニ係ル
今一時五十分又飛電アリ松戸駄ヨリ至ル
日一進行スト
之レヨリ先キ二十六日夜ヨリ二十七日午前ニ
涉リ飛電ノ至ルモノ前七回所報ノ正ニナ
ルヲ以テ遠ニ信シ難シトセリ然ルニ被害民ノ
進行已ニ此地ニ至リ政府ノ警戒防止ニ急ナリ
ト聞ニ及シテハ正造^又黙視スル能ハス即チ
内務省ニ至テ情状ヲ陳^自無益ノ衝突ヲ避ケ又
キヲ望^{タリ}警保課員等之ニ同^ル但シ此ノ時内務

省ハ、電報ハ千人ナリト今課員ハ決^リ
今七時二分又飛電アリ越ヶ谷ヨリ至ル報中
露痛云々、事アリシカハ大ニ驚キ且ニ痛憂ニ
堪ハス急ニ越ヶ谷ニ向^テ用意ヲナス此時事務
所員ナレモ、一人モ居^テ即チ二十八
日ノ午前一時栃木縣人須永金之郎山田友次郎
、二人ヲ留メテ留守セシメ群馬縣人左新彦次
郎ヲ伴ヒ前々日来ノ病ヲ推シテ請願人一行ノ
進行先ニ向テ進^キ南^上江^打地^名、橋ヲ街
ニテ見ル已ニ^南上^江打^地達ス^橋木^間、東京
府南^上江^打地^名、^下郡^名、時ニ鶏鳴三時車
夫等空腹耐^ル難キヲ訴フ乃チ旅舎島屋ニ投シ

テ飯ヲ炊カシム正造ノ車夫朝来馳駆奔走疲レ
テマ夕歩スル能ハス乃々食后一憩ヲサシ
メ正造亦其間ヲ以テ病軀ヲ休養ス一睡凡ソ二
列強柙曉旅舎ヲ設シテ北進^時日村字保木間ニ至ル
午前六時^最、交騎馬ノ憲兵五騎南スルニ逢フ
蓋^最防止モ力及ハスレテ午住ニ退却スルモノ
ナ^最既ニシテ請願人一群凡ソ百人全進行ニ来
ルニ逢フ巡查一人群ニ先キ逢フテ来ルニ正
造之レリ向^最我カ傍ニ^{招キ}来^キテ^最諺シテ我カ
右ヲ去ラサシム即チ巡查刺ヲ通ス午住警察
署誌ニテ竹本有末ト云フ已ニ^ハシテ^{江村}長坂
田庄助来リ刺ヲ通ス蓋シ坎地^{江村}北村隈

ハ心キキ
待ツコト暫時ニシテ請願人一群又踵キ至ル
乃々村長ヲ頼ミテ近傍農家ノ庭園ヲ借ラシメ
請願人ヲシテ之ニ入ラシム既ニシテ請願人ノ
者至スルモノ數群農家四五ノ庭園立錐ノ地ナ
ク後^最至ルモノ皆道路ノ兩側ニ充塞ス村長坂
田庄助始メ村會議員等斡旋最モ努メ村社水川
神社ノ境内ヲ借リテ請願人ヲ此ノ大庭ニ集^最
シム其數凡ソ二千四百人被害人中却遠シ
テ新ッルモノアリ日吾々カ早川田ヲ奔スル^時
數一万余其大半ハ警吏ノ鬼嚇ニヨツテ追歸
サレ殘リ来レルモノモ亦船ヲ奪ハレ橋ヲ擁セ

至ラ其大半ハ威カノ為ニ割セラレ虎待酷過
 至ラサルナキ為ノ途ニ渡リテ存シテ帰村セルノ
 巴ハヲ得サルニ至レ我々一行ハ道ヲ轉
 シテ昨夜越ケ谷付近ニ露宿セシニ憲兵ノ七状
 ナル夜半馬ヲ驅ツテ吾々露臥ノ頭上ニ圍入リ
 其蹂躪ニ逢フテ顛轉離散為メニ溝壁ニ踰リ負
 傷セシモノアリ若シ警吏ノ虎待憲兵ノ蹂躪ニ
 逢フナクシハ茲ニ至ルモノ必ラス一万人ノ上
 ニ出テタルヲラレト
 既ニシテ喧囂漸ク静マリ乃チ各着ル所ノ篋ヲ
 敷テ休息ス等多數ナル如クテトモ鎮毒
 被害地百數十村ノ邊也ニアラヌ洪水鎮毒家宅ヲ侵害
 全柳ノ人ニアラヌ洪水鎮毒家宅ヲ侵害

ノ記濫ニ依リ

セラレ

且夕衣食ニ窮スルモ、及其付近ノ人々ニ
 渡良瀬瀨其廣小東西近二十余ヶ所村々過キス然レトモ
 里程其廣小東西十六七里ニ涉ル區域ニ以テ被害人互
 ニ知巴ノ人乏シキ有様ナリ故ニ各居村ニ被
 害人ト互ニ近寄リ危咄シテ敢テ喧噪セズ未
 ヲリ先ニ正造乃チ村長及巡查一名ヲ伴フテ
 社頭ニ上ル社掌、神官亦斡旋最モ懇篤ナリ偶
 々警視總監官房茅二課保安係長石川守三至リ
 暫クシテ陸軍憲兵大尉安田重朝左少尉桐生定
 政等相次テ至リ予住警察署長某亦警部一名ヲ
 隨ヘテ至ル時ニ請願人中再ニ泣訴ノ声ヲ高メ来
 ルモノアリ訴ヘテ曰吾々ハ一昨夜未嘗テ一睡

ノ記濫ニ依リ

セサルノミナラズ剩ハ憲兵、為ノニ蹂躪セラ
レ殊ニ埼玉警察官吏ハ請願人、飲食ニマテ干
渉シ村長等ニ嚴命シテ炊事用ノ鍋釜ニテモ貸
与セシメス其酷待実ニ悲憤ニ耐エサルモノナ
リト泣訴ノ声ハ変シテ憤怒ノ声トナリ四方相
呼應シテ喧囂漸々其度ヲ高ム以テ先キ正造
ハ村長ニ囑シ白米五俵ヲ購フテ食事ノ準備ヲ
ナス炊爨ヲ始ムモ、凡七八ヶ所村長村会議
員ノ身ヲ以テ午ツカラ握飯ヲナシタリ正造
后ニ時請願人、后レテ猶未タ至ラサルモ、
時ニ至リ^味会スルモノ陸續多シト是時機ノ後ル
ルヲ恐ルカ故ニ正造ハ殊更ニ巡查一名ト軍

人、大尉小尉二人及警視警察、官吏六人ト土地
、村長、議員等ヲ立会ハシ^新言論ヲ記憶ス
注意ヲ促シ而シテ後チ社頭ニ立^新大勢ニ^新
左、趣旨ヲ演説シタリ
皆様私シカ田中正造ヲアリマス知ラヌ御方
、ミ、^新ウテスカ中ニハ十中、一位ハ私ヲ
シル人モアラシ然レトモ皆様カ大勢出京ノ
理由ハ正造能ク之ヲ知レリ実ニ本月、大洪
水ハ又ハ^新鑛毒ノ侵害^新ニ十九年、洪水ヨ
リハイクテカ水量ハ低クケレ山岳、崩落
ト河床、埋没トヨリ^新洪水ハ水量^新鳥ノ
又洪水、速達一層急激ニシテ水量相層ニ急

テ堤塘ヲ設シテ村落ハ鎮毒ノ泥水中ニ没セ
ラレ家屋ハ毒浪ニ漂フテ浮キ流サレ、アリ
其悲塔想像ノ及ハサレ杜ニ連シ^難不得已万
死ヲ冒シテ出京セシモ、ナラシ一昨年ヨリ
昨春ニ涉リ數ヶ町村長カ連署^{の上}地方廳
ヲ経テ中央当局諸大臣及帝國議會ニモ再度
ニテ憲法ニ律ノ保護ヲ供ヘラレ度旨ノ請願
^三層ヲ奉呈シ其他大小ノ請願陳情層^等呈出セ
^前モ^後其種類極ノ多キニ関ハラス議會ハ
解散ノ數ヲ重シ政府ハ之ニ對シテ何等ノ処
分ヲモ為サ、ルヨ以テ請願、返答ヲ政府ニ
需ムルカ為ニ農商務省內務省、門前ニ至リ

テ返答ヲ得ルコトハ餓死スルモ退カサント
ノ決心ヨリ出京セラレタニ^次相違ナク其哀
情ハ眞ニ察スルニ全リ^情ナリ
皆様何故ニ足尾銅山鎮毒被害人は限り多年
間憲法ニ律ノ保護ナク所有權ハ犯サレ教育
ハ喪失セラレ衛生ハ害サレ田園ハ荒ラサレ
渾テノ生業ハ損害ヲ受ケ且ツ停止セラレ^是
レ皆人為加害ニシテ現今ノ法律ヲ以テハ如
何トモ為スヲ得サルモ、ナリ例ハ財産ヲ
失フテ公権ヲ剝奪セラレ^是ナリ通常
與毒洪水ノ為ノ荒地免租トナリ夫ト今時ニ
公権ノ消滅スルハ被害民ト雖トモ^能信ス

テ居りてありましか

此ナリ今鑛毒ノタノ免租ト今時ニ公民権
 消滅ニ至ルトモ其ノ存続セシムルハ
 ナリ後ヲ存続セシムルハ能ハサルハ
 現行法律
 知分トシテハ尤モナリ然リトモ人爲ノ
 加害ヨリ財産ヲ奪ハレ生命ニ奪ハレ權利ニ
 剝奪セラルルノ理由ナシ財産回復スヘシ公
 権々利存続スヘシト云フ被害民ノ云フ知又
 当然ノ理由ナシハ双方ノ道理各確キタル一
 理アリテ互ニ衝突ヲ免カレサル次ナリ又
 町村制ノ如キモ此ノ被害地ノ実力ナリ即チ
 自治ノ力ナク從テ公民権ヲ消滅シ町村奉テ
 破壊ニ至リ即チ町村制ノ及古トナリテ
 現行法律

法律上各等權利財產ノ消滅ノ町村

行スル能ハサルハ其ノ地方官ハ旧ノ
 如ク町村制ヲ適用シテ無害地ノ様ニ
 國事事務
 已ニ高給ノ職務管掌吏ヲ派出シテ
 徴収セントス而テ其町村破滅ノ実況ヲ
 徴シテ鑛毒加害ナキヲ証セントス如キ
 法律ニ嵌マラサルハ鑛毒被害地ノ
 分ナリ独リ提防新設増築及請願權ニ就テハ
 今其憲法ニ據リテモ其相当地ノ法律
 ナリ又其法律ハアレバ以テ保護
 局ノ常ニ衝突ヲ免カレサルナリ又其損害
 至テモ有形無形ノ損害ハ計ルヘカラス僅
 カ二十九年ノ計算ト三十年人民ノ損害ト國

家、損害ト、ミツ合セテモ有形上ニ於テ也
千万圓以上ニ登ル可ク、玆他無形ノ損害ト向
接、被害ト及ヒ官有林野池沼河川奥驛禽獸
人虫類、捕獲ヲ以テ生業ヲ営ムモノ等、數千
ノ多キニ至リ、且ツ衛生及ビ其數、救済ニ
至リ、且ツ衛生及ビ其數、救済ニ
社会ノ秩序ヲ保テ、諸君ニ因ラサルヲ得
モ、
一大國家問題ニ、御止メ申サレ、凡玆、如キ
國家ノ志士仁人及學者其他、彈テ先覺名譽ア
ルモノハ、玆被害者ニ先達テ其責ヲ負フモ

、ナリ就中政治家ハ國家ノ憂ニ先ニテ之ヲ
憂フル是レ政治家ノ本分ナリ又当局者タル
モノ、責任ニ至テハ更ニ此ヨリ重シ畢竟請
願肩、出ルヲ待テ然ル后テ去ラスルハ常ノ
事ナリ請願ノ出テサレニ先夕ワテ之ヲ処分
スルヲ以テ責任、至リト云フナリ今ヤ諸君
、慘状ヲ見テ諸君ノ新ヲ見テ政府之ヲ救ハ
ス社会之ヲ救ハス、勿論、モ立法院ヲハ衆
議院モ本年再度、改撰トナリ新任ノ議員モ
多クアリ新政府ハ加害被害ノ事情ヲ知テサ
レ可カラサレ、答テレ、内閣ノ交代屢ニシテ
農商務大臣ハ九ヶ年間に十人ノ交代トナリ

1910

実ハ新任ノ内閣新任ノ役人ナレハ是亦加害
 激被害ノ慘ヲ知ルモノ少ナシ被害民ノ不
 幸ト加害者ノ幸福トハ大差ヲ生シタルモノ
 アリ又右願ノ役人アリトモ当局者ニアラ
 サルモノハ致被害民ノ惨状十カ一二モ知ル
 モノナシ又当局各省責任ヲ分ツモノ數十課
 アリ実ニ鑛毒被害問題ハ此ノ普通洪水乃至
 地震噴大海嘯火災等ノ如キ淡泊ニシテ單
 ナル問題ニアラス又社会ニ火災震災等
 経験ナク今右未曾有ノ問題キルチ当局者
 ニアラサル役人如何ニ右願ノ者ト並凡
 如何トモ能ハス

顧ミレハ昨春鑛業停止請願ノ為ノ数千人ノ
 被害人出奔入京セントセシ時モ諸君ハ利根
 川ノ橋ヲ撤セラレ寒風肌ヲ裂ク候迄寒針
 ヲ以テ刺ス如キ水中ニ飛込ラキ自
 ラ橋ヲ架シテ渡リ又埼玉縣岩槻ニテハ巡查
 数十人ノ突貫ニ逢フテ散乱負傷ニ漸ク板橋
 宿ニ達セシモノハ六七百名ニ過ラズ云フ
 下並モ坂間不馴ノ旅行ト寝食ノ欠乏ヨリシ
 テ帰宅ノ后病ヲ死スルモノ下野ノ安蘇郡男
 村大字馬山ノニシテ二人而シテ坂六七者ハ
 孰レモ皆老人ナリ高山ノニシテ二人アリト
 スレハ全体ヨリシテ云ハハニ二十人ノ病死

者アリシナラント信ス今回モ亦此轍ヲ踏テ
或ハ病臥斃死スルモ、等ヲシトモ云ハス若
シ農商務内務ノ門前ニテ死スルヲ得バツレバ
諸君ハ満足ナラシムルモ、次分ニモ行カスレ
テ帰國后病ヲ養ヒテ死ニ至ル等アラハ莫ニ
残念ノ次分也
國家如以不幸、民アルヲ知ラハ官吏及儀
員、如キ皆率先決心死ヲ以テ之ヲ救フヘキ
責任、アルモ、ナリ彼ノ兵仗ニ就クモ、ヲ
看ヨ日清戦争ヲ見テモ知ルヘシ寒天雪ヲ冒
シ敵ヲ突テ陣頭ニ死スルモ、多キ^知救國
ノ為ノ死スルハ兵ノ責任ニアラヌ軍人

及ヒ一般ノ官吏モ立法院モ然ルモノナリ兵
士ノミナリ以テ國ノ為メニ死スルモノト思フ
ハ大ニ的誤リナリ
第一正造ハ日本ノ代議士ニシテ亦其加害被
害ノ顛末ヲ知ル^{日本正造}處ナリ^{故に衆議院}先達ヲ
テ尽力ス^{日本正造}然^{の故に}諸君已ニ非命ニ斃ル
ヲ見ル正造ハ諸君ノ死ニ先シテ死シタセ
サレハ一カラス然レ氏新政府ハ未ダ埃状ヲ
知ルモノナキハ敢テ正造カ述^{如くナレ}
ハ新政府ノ人々ニ説明シテ被害ノ埃状ヲ陳
述スル、一大必要アリ何トナレハ被害民カ
身体疲レ且二昼夜モ寝食ヨ欠キシルモノナリ

迎フニ兵士ト警吏トヲ以テ橋ヲ撤シ道ヲ
扼シ渡船ヲ奪フテ渡ル能ハサラシメシ等殆
ト竹鏡石北敵ノ襲ト来ルニ備フモ、如シ
之レ越ニ事實ニ通セス事態ヲ解セサルカ為
ニシテ全ク誤解ヨリ扶残酷ヲ加ハラルモ、
ナラシ
右ノ中ニハ知ラヌモ、程怖シキモノハナシ
如何ニ奔走シ如何ニ説明シテ以テ救
害ノ撲滅ト人民若原^{藩の真相を披露し以テ救}有体ヲ貫徹^{救済}
ヲ得ルカ^是レ正造等カ^同志諸氏ト共ニ新内
閣ニ説明ノ勞ヲ取テト欲スルノ決心ナリ
今一ツハ現政府ハ憲政ノ政黨ニシテ諸君ノ地方ニ

モ旧自由旧進歩黨負、少カラサル^{地方}
即チ諸君ノ中ニハ旧自由旧進歩黨負モ少ナ
カラサルハ今日ノ政府ハ即チ諸君ノ
政府ナリ又我々ノ政府ナリ我々ノ政府ナリ
ハ充分信用アツテ及ハサル処ハ助ケサルヲ
得ヌヨツテ我々ハ諸君ニ代リ政府ニ事實ノ
説明ヲ採リ諸君ノ願意徹底ヲ計ルヘシ故ニ
諸君ノ内ヨリ惣代十名以下ヲ殘シテ一人ハ
早ク御帰國アラシメテ之レ正造等カ只管相談
ニ及フ所以ナリ^{町長}
又御帰國ノ上ハ新任知事及大小議員郡長等
ニモ充分説明セラ^{ザル}ズ^ハ専ハラ大小局外者ヨリ
彼等ノ過半ハ或事信に依リテ加害者ト加撥^セル

此の如き事柄は、地方自治の発展に資するものあり、故に之を支持するに努むべし。

〃

モ全情者ヲ多ク求メ振力ヲ願ヒ中央ニ於テ
●万一政府ハ事實ヲ解スル後々ニ至リテモ
必分ヲ怠ルアリハ正造ハソレコソ諸君ニ卒
先シテ諸君ヲ同伴シテモ出京セシノミ
今一ツハ正造及全志等ノ説明ヲ用テサレハ
正造等ハ議會ニ於テ責任ヲ負同シ亦社会ニ
向ッテ当局者ノ不法ヲ訴ル其トキ諸君ハ
此事ノ通知ヲ得ハ所出京モ所隨意ナリ正造
ハ再度艾シテ御止メ申スマシ否ナ膏ニ御止
メ申サ、ルノミナラス其時コソハ正造ハ諸
君ト共ニ進退スヘケレハ夫レマテ諸君カ今
日死ヲ艾シタル生命ヲ保タレタシ之ソ正造

カ諸君ニ誓フ所諸君希クハ採用アツテ
ノ入京ヲ止メ速ニ帰国アラル様正造ハ噓
ヲ云ヒマセン申シ述ヘタル通リ
ト演ヘ終リタリ
諸願人等皆静肅傾聴シ無量ノ感慨禁スル能サ
ルモノアリテ然ルヤ歎歎流涕スルモノ教百人
或ハ声ヲ放テ悲泣憤慨スルモノア
動テ悲慘ノ情察スルモノ余リアリ正造為ノミ
動カサレツ、坐ニ復セシトシ左右ヲ顧ミレハ
憲兵將校下士卒及警部巡查等一人ノ眼中涙ナ
キモノアラサリシ正造此ニ於テカ以爲ヘラリ
軍史警官モ亦人ナリ其誠実ニシテ血アリ涕アリ

ルノ人々ニテ以隣ムヘキ被害人ノ行路ヲ妨ケ
刺ヘ之ヲ酷遇虐待ス知ラズ是果ニテ何ノ爲メ
ノ道路傳唱スルモアリ曰ク加害者右河市兵
衛一行改官及軍人ヲモ左右ニ使役スルモノナ
リト正造ハ其何ノ謂クニ知ラズ推テ上下
意志相通セズ互ニ相誤マラル、致ス所
演説終ニヤ以時情願人中折木縣人野口春藏社
頭、登リ立テ反對ノ意ヲ述テ曰ク、
政府、答弁ヲ得ルコト此地ニ滯留スル
群馬縣人亀井明次郎ニ立テ憲兵ノ暴横ヲ
述、其理由ヲ曉トセリ
一行中群馬縣邑楽郡大島村関口某ハ

潜々
渡

廊下ヲ叩テ憲兵警官ノ無情ヲ訴フ正造ノ面
ニ来リ訴ルカ如キモ、偶々其面ヲ知ルモ
、アレモ其名ヲ知ラズ此、時憲兵大尉安田重
朝ハ左近衛次郎、紹介ヲ以テ一行ニ向テ諸君
、訴フル如ク憲兵ノ不法若シ事實ナラハ充分
取知ス、^依負傷者ハ午住ノ屯所ニ来ル
シト述ヘシ野口春藏一行ノ利害ハ一行ノ責
メナレハ一行カレト云、
ハ改シテ事實ヲ故造シテ無キヲ有リトシテ訴
ルモノニヤラス大尉ハ、^モ異口同音又且、
又自ラ訴ヲ掩フモノナリト呼号スセリ
此形勢ヲ見ルヤ午住警察署長ハ遽然坐ラ去ツ

テ帰ル^是レ大勢、如何トモスル能ハサルモノ
ト判断シテ千住ニ馳セ帰リ、今所ノ橋頭ヲ護ル
ノ準備ヲ勤メタルモノ、ナリト云フ已ニ此各
村ノ重モナルモノ、ハ社頭裏庭ニ会議ヲ開キ衆
議百出、后遊ニ正造ノ意ヲ容レ一行中惣代ヲ
撰ミタリ、但シ正造ノ十人以下ナルヲ五十人ト
改メタリ
右相談ノ結果ハ大出喜平谷元八等之ヲ報告ス
以時請願人中亦憲兵警吏ノ横暴ヲ訴フルモノ
アリ、今憲兵此所ニ赴^{漸ク}カント喧嘩セシモ免^罪ル
之ヲ制スルモノアリテ^{漸ク}止^むタリ、憲兵大尉
安田警視總監官房係長谷川等モ厚ク謝辞ヲ述

ヘテ引キ揚ケタリ、被害人ハ一々モ涙ヲ飲ミ信
ヲ政府ニ置キ一々善后ヲ約シテ帰國、途ニ就
キタリ正造等モ又今朝来今行セシ巡查及ニ村
長議負等ニ謝シテ、決ニ帰途千住宿橋頭、辺ニ
警官數十百人克ク道路ヲ塞キテ旅人ノ通行ヲ
妨ケルヲ勤ムルヲ見テ正造直ニ在所警察署ニ
至リ其無益ノ妨害ヲ解カシメタリ
右ノ次第ナレハ警視總監軍人大尉及警察署長
其他ヨリ当時報告反復命、アリタリ、答、モノ
ナレトモ豈計ラシク、^{代官正造等}尔来内務大臣次官ヲ始メ公
務ノ多忙ヲ名トシ、^{免角面会ヲ避ケル}、^{正造}余儀ナ
大ニ疑團ヲ生スル、折柄内閣交送アリ、余儀ナ

當時ノ実況ヲ略記シテ被害地人民ノ惨状ヲ
証明スルモノナリ
後ニ同リ秋上京セル被害民ハ多年鑛毒水害ニ
困窮セルモノニシテ果シテ秋上京者ハ数日^間兼
水害ニ止ムナリ毒食ヲナシ秋旅行中痛ク寝食
ノ欠乏アリシト二昼夜間ニ涉リテ露宿ヲ為シ
夕ニ為メニ老躰ノ如キハ保木間滞在^中ヨリ既
ニ病トナリ帰郷后倍々病床ニ卧シタルモ多
シト云フ
又開ク所ニヨリ^本此、上京被害民ハ鑛毒稀薄地、
被害民ニアラスレテ極メテ激甚ナル被害村、
窮民ナリ而シテ此ノ行路、途中露宿二夜ニ及

シテ東京ニ達スルノ間、渡食ヲ欠キ或ハ妨害セ
ラレタルハ最^{陳の如く}記載シテ秋旅行、失
費ハ又実ニ驚クヘク被害民カ郷里ヲ出立セル
時ハ凡ソ一万三千人、多キニ及ビ此カ失費ヲ
略計セハ実ニ左ノ如シト
一日一人ニ付三十錢ツ、最下等旅費ニ積ル
モ七千五百圓余、途中利根川、渡取ヲ喰ヒ止
メラレ夜間僅カニ一踏ヲ忍ビテ利根川ヲ渡
リ又夕警吏ノ為メ船ニテ送り歸サレ秋ノ困
難ヲ忍ビテ東京府下保木間トシテ迄来リ
シモノ、略三千余名此ノ行路ハ二日ニシテ保
木間ニ滞留一日トセハ三日ナリ一日一人三

十幾、トシテ最下等、茲貴ニ積ルモ此ノ
金二千七百円帰途、最下等汽車ト見積リ一
人六十八、此金二千、四十円入京、總代五十
名、凡ツ十日間滞在、金五百円、余合計金一万二
千二百四十円、多額ニ至ル、
右、如ク被害民カ一時ニ以テ非常ナル
失費ヲナシ、東京府ニ達シ、漸ク政府ヲ信
シ、總代ヲ帰國セシハ可憐ニシテ、總便ナ
ル良民ナリ、然レモ何ソ計ラニ政府ハ以テ、良民
ヲ愛護スルコトヲナサズ、即チ總代カ内務省農
商務省ニ出頭シ、極メテ着實ニ面謁ヲ求メ、
大臣次官等以テ謝絶シ、悲慘、情ヲ陳スルヲ

得サラシメ、タリ、昨玄明治廿九年以來呈出シ、ア
諸請願、實踐ヲ請フ、為ト目下、浸水、救助
ヲ求メ、シ、為ニ錢多、若痛ヲ忍シ、大勢出京シ、
シ、ルモ、^{上は實際止む所は}如何ニ酷過サレ、^{如何}願
ハシ、^{能ハシ}悲境ニ至リ、^{車ヲ}左右ニ托シ、^面
會ヲ峻拒シ、タリ、^見僅カニ農商務大臣ニ於テ、^面
謁ヲ許セシモ、^徒徒ラニ時日ヲ経過シ、^憂憂悶、
情ヲ増サシメ、^此此、^然然代等ハ、^時時洪水ニ、^家家屋ヲ
流セ、^セセラレ、^或或ハ壁落シ、棟傾キ、^泥泥源セ、^毒毒水ハ
其床、^上上ヲ去ラサレ、^破破屋中ニ、^家家族老幼ヲ、^残残
シ、^老老幼旦夕衣食ニ叫ツ、^報報頻リナリ、^止止ム

ナク恨ヲ吞シテ一時帰國セザルヲ得然ルニ
此際又悲シムハ一ノ前内閣ハ公党中、軋轉ニ托
ハレリ此、被害民、慘情ヲ顧ルニ山林ノ盜賊時、斯
廿九年以來内閣、屢ニ交迭、
與政府同様、境遇、
空シク歲月ヲ送り、
ハ兵馬ヲ以テ屢々請願、進路ヲ妨ケラレ或ハ
警吏、辱ノ罪、
テレシ等酷過ニ酷過ヲ重シ今再々一時ニ多額
、失費ヲ致シ或ハ家財、紛乱損傷アリ其、悲
慘、種目數々未レハ筆舌、尽ス能ハサニ状情
ナリ剩數百人、疾病患者此、請願、行路中

東樂

水、量、
日、日、
倍、倍、
改、改、
百、百、

皆ナ官吏、虐待ニ苦シメラレヨリ原因シ
タリトセハ此レ憲法々律、保護ヲ為サ、
極ニシテ寧ロ政府ハ此、被害民ノ生命ヲ奪フ
モノナリ實ニ無殘酷薄、至リト云フ一ニ被害
民ハ今ヤ實ニ投、
痛ニ悲痛ヲ重、
猶、
止、
ト其泣訴ニ全情ヲ表シテ止マサニ者ナリ政府
ト甚氏斯ニ無情、
一ニ現政府ハ果シテ如何トナス

明治三十一年十一月 日奉呈

本問題、多年に亘り國家問題に於て最層の本
年九月廿六、廿七、廿八三日間、出来事に於て前
内閣に奉呈致し置矣得共猶茲に奉呈仕候

明治三十一年十二月五日

栃木縣安蘇郡旗川村

田中正造

